

令和4年度第2回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会会議録要旨

日 時 令和5年3月17日（金）

午後2時～午後4時

場 所 あま市役所本庁舎 2階大ホール

1. 出席者等

委 員	12名
事務局	5名

2. 会長あいさつ

- ・5月8日からコロナの扱いが5類に代わり、社会情勢も少しずつ変わってきている。
- ・本日は、デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した地方版総合戦略の策定、改定について、そして、SDGs関連の寄贈について、を議題とする。

3. 議題

- (1) デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した地方版総合戦略の策定・改訂について

○座長

- ・事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局

(資料1に基づき説明)

- ・平成26年に国は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、まち・ひと・しごと創生総合戦略を閣議決定した。
- ・地方版総合戦略の策定が市町村の努力義務とされたことから、本市においても、あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、現在は令和3年度から5ヵ年の第2期まちひとしごと創生総合戦略の期間中。
- ・令和4年12月23日に国は、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す、デジタル田園都市国家構想の実現に向け、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改定した、デジタル田園都市国家構想総合戦略を閣議決定した。
- ・あま市の総合戦略は、それぞれの基本計画が国の新たな総合戦略の方向性に通じていることから、既に進めている事業について、デジタルの力を活用してさらに推進していく内容を盛り込むことが、今後の改訂のポイントになると考える。
- ・国及び県の改訂を勘案した次期総合戦略の内容や改訂時期は、県の動きも注視しながら、総合戦略委員会にて検討して参りたい。

○座長

- ・こういうことをデジタル化しているということや、こういうことがデジタル化されたらいいというものがあれば、ぜひご提案をいただきたい。
- ・大学ではアンケート調査などは、QRコード読んでスマホで入力というパターンが非常に増えている。

○委員

- ・子育て支援のイベントなども全部SNSで配信している。
- ・1度登録さえすれば、必ずお知らせが届いて、家にいながらにして情報を得ることができる。

○委員

- ・まちの魅力向上などにプラスになるかどうかを考える必要があると思う。
- ・若者からの意見として、会議をオンラインにしてもらえると参加しやすくなるという声をよく聞く。
- ・使い慣れている世代にとっては、そういう選択肢も含めて取り入れていくと、地域に関わりやすくなると思う。

○座長

- ・講演会、セミナーや勉強会は大体東京中心だが、東京に行かなくても傍聴できるのは非常に大きい。

○委員

- ・北海道とか長野とか、いろいろなところのお客様とやりとりするのも大分オンラインが普及したおかげでやりやすくなった。その環境を上手に使ったらいいんじゃないかなと思う。

○委員

- ・デジタルから一番取り残されているのが市民活動の分野。
- ・市民活動を支えている世代はシニア層。課題は、若者と連携が取れないこと。
- ・回覧板を、紙を使わずにLINEを使って全ての家庭に情報を届けたいというニーズがある。
- ・シニアの方々がSNSの活用方法を学べる仕組み、学び合いが地域の中でできる仕組みができると誰も取り残されない。
- ・子育て支援、不登校やひきこもりの問題の解決にもデジタルが活かせるのではないかな。
- ・そういう方々が自宅にいて、デジタルを使って、社会と繋がることもできる。
- ・いながらにして社会と繋がりながら、徐々に自立していくという方法もあると思う。

○委員

- ・資料に誰一人取り残されないための取組とあるが、高齢者はマイナンバーひとつ作りに行けない。
- ・若者に寄り添えるような考え方を持ちたいと思いながら、機械のことに疎い方もみえるので、指導するような人材が必要である。

○委員

- ・e スポーツのイベントをやることで、若い人たちとのコミュニケーションも取れる。
- ・やったことのない人に教えてあげるような機会を設けることでコミュニティができ、高齢者のほうからも若い人にいろいろ教える場になる気がする。
- ・例えば七宝焼をデジタルアートやデジタルミュージアムとして外に対して発信するとか、研究してみる価値はあると思う。

○委員

- ・確定申告で電子申請があるが、業種にもよるがまだまだ紙が多い。年配で商売をしている場合だと拒否反応を起こしてしまう。誰がどのように教えるのかが問題だと思う。世代が入れ替わらないと難しいかもしれないが、ゲームから入って徐々に慣れていくのも近道かもしれない。

○委員

- ・高校生が得意なのはスマホであってパソコンではない。大学に行くと授業の登録等で触れる機会が増えていくので、必要だから覚えていく。
高校は一人1台パソコンがあるが、無理してやらなくてよい事だったかもしれないがコロナ禍で動いた気がする。
- ・授業の配信もぎりぎりですやっていますが、何とかついていく努力をしている。
- ・関連して設備について、昭和の建物に平成の配線をして令和の機械を導入しており、様々な問題が発生している。お金はかかるがセッティングがきちんとできれば若い世代は使うことができる。

○委員

- ・本校は地域活動に力を入れているが、デジタル化の一環として生徒がパワーポイントなどを活用して活動発表を行っており、デジタルの力を活用することに触れる機会が増えている。

○座長

- ・様々な世代においてそれぞれの課題がある。誰一人も取り残されないようにするのが理想だが、今は5～60代の方まではデジタルになじみがあると思うので、数年

したら誰もがデジタルを活用できる時代が来ると思う。

(2) S D G s 関連の寄贈について

○座長

- ・事務局から説明をお願いします。

○事務局

- ・本委員会に参加いただいている三菱U F J 銀行様より、銀行内における地域貢献活動の一環としてS D G s 関連の七宝焼作品を作成、寄贈していただく提案がありました。
作品が完成次第委員会の場で報告いたします。

○座長

- ・大変ありがたい申し出だと思います。作品を楽しみにしています。
- ・長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。